

交通結節点WGの取組成果の とりまとめ(案)

◇ 取組の背景・概要 ◇

- 複数の鉄道やバスなどが乗り入れるターミナル駅では、高齢者や外国人旅行者を含めて誰もが分かりやすく利用しやすくなるよう、交通事業者や施設管理者などの垣根を越えて改善に取り組むことが重要である。



管理者をまたいでも連続した案内のサイン（博多駅）
【案内サインの改善】



段差解消のための昇降機（新宿駅）
【乗換ルートのバリアフリー化】

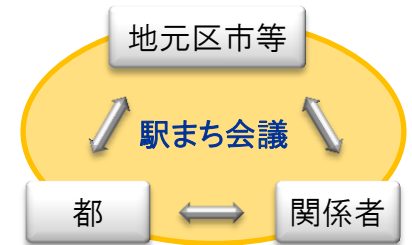
- 先導的なモデルとして、新宿駅では都と地元区が連携し、案内サインの改善や乗換えルートのバリアフリー化等、具体的な対応策を取りまとめた「新宿ターミナル基本ルール」を平成27年3月に策定するなど、複数の事業者の垣根を越えた取組が進められている。
- 2020年大会に向けて、新宿駅と同様の取組を他のターミナル駅にも拡大し、初めての人でも利用しやすく、分かりやすいターミナルを実現する。

◇ 取組内容 ◇

- ◎ 「ターミナル駅利便性向上指針（案）」（別冊）に基づき、以下の取組を推進する。
 - 案内サインの改善（連続性確保や表示内容の統一）
 - 乗り換え動線のバリアフリーの推進
 - サービスの向上 （新宿駅と同様の取り組みを他のターミナル駅に展開）

◇ 検討体制 ◇

- ◎ 駅毎に、地元区市の主導により、関係者による検討体制の構築する。
（駅まち会議の設置）
- ◎ 都は、新宿駅の取組を参考に支援する。



◇ スケジュール例 ◇

- ◎ 下記のスケジュール例を参考に、ターミナル駅の改善の取組を進める。

	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
改善に取り組むターミナル駅	→	→	→	→	→
	検討体制構築の準備	現状把握 基本ルール策定	詳細協議調整	整備実施	7月 ◎ オリンピック パラリンピック

◇ 2020年までに改善に取り組むターミナル駅 ◇

- ◎ 一定の条件を満たすターミナル駅の中から、現時点での関係区市の意向を踏まえた上で、2020年までに改善に取り組むターミナル駅として取りまとめる。
- なお、東京2020大会競技場周辺駅などにおいても、多言語対応の案内サインへの改善を促進する。

○一定の条件

【乗降客数】

東京都内の1日の平均乗降客数 **20万人以上**の駅

【事業者数】

駅に乗り入れる事業者数が **2者以上**の駅

【路線数】

駅に乗り入れる路線数が **3路線以上**の駅

「**新宿駅**」、「**渋谷駅**」、「**池袋駅**」、「**東京駅**」、「**品川駅**」、
「**浜松町駅**」、「**日暮里駅**」、「**立川駅**」、「**八王子駅**」の9駅

※ 今後、他のターミナル駅についても地元区市の意向などを踏まえ、取組を促進する。

※ 法定協議会の設立などの条件を満たす駅については、補助制度の適用も可能である。

◇ 2020年までに改善に取り組むターミナル駅 ◇

駅名	地元区市	駅名	地元区市
新宿	新宿区	浜松町	港区
池袋	豊島区	日暮里	荒川区
渋谷	渋谷区	八王子	八王子市
東京	千代田区、中央区	立川	立川市
品川	港区		



◇ ターミナル駅利便性向上指針 ◇

別冊 参照

- ◎ 各ターミナル駅における検討手順を示すとともに、ターミナル駅間での案内サインの統一感を確保するなど、案内サインに示された情報が利用者に同じように伝わるようにするため、特に留意すべき事項について取りまとめたものである。

○ターミナル駅利便性向上指針

検討体制の構築（駅まち会議の設置）

各ターミナル駅ごとに地元区市等の主導により、対象範囲を決めた上で、駅に関する関係者が一堂に会して以下の3つの取組の課題を共有し、取組を継続していくための体制を構築する。

⇒将来的には、駅とまちのより強い連携に向けて、各種施策に取り組むことが望ましい。

案内サインの改善

- 検討する手順
- ターミナル駅における案内サイン共通化指針【多言語対応含む】

乗り換え動線のバリアフリーの推進

- 検討する手順

サービスの向上

- 参考取り組み事例